

「森の国」大山町に特別賞

エコツーリズム大賞

地元自然や歴史を生かして観光として成立させ、資源の保全につなげる活動に取り組む事業者や団体に贈られる本年度の「エコツーリズム大賞」(環境省、NPO法人日本エコツーリズム協会共催)の特別賞に、大山町赤松の「森の国」(伊沢大介社長)が選ばれた。鳥取県内の受賞は2例目。国立公園・大山のブナの森ウオークやダウンヒルサイクリングなどヒット商品を生み出し、全国のファンを増やしてきた実績が評価された。



「感動を届けたい」と意気込む伊沢社長
大山町赤松の森の国

体験プログラム高評価

大賞は2005年度から始まり本年度が10回目。全国で活動するエコツーリズム関係者の連帯感醸成を図る狙いがある。

森の国は1978年にオープン。工作教室を皮切りに、大山の豊かな自然を取り入れた体験プログラムの開発に取り組んでいる。09年には、NPO法人大山中海観光推進機構「大山王国」と連携、

標高約850㍍のスキー場から日本海まで約25キロを自転車で約3時間半かけてゆっくり下るダウンヒルサイクリングを考案した。竹林の中を通ったり、農家の軒先で住民と会話するなど、施設だけでは見つけられない魅力に触れる旅としてピーターも多い。季節によってコースや目的地を変え、いつ来ても楽しめるような工夫も。

「森の国の体験プログラムは全国的に見ても高いレベルに仕上がっている。受賞はエコツーリズムの盛り上がりにつながる」と大山王国の石村隆男理事長(57)。伊沢社長(41)は「大山エリア全体の協力があってエコツーリズムができて、これをあらためて感じた。これからも感動を届けたい」と話している。